

民事再生等評価換えが行われる場合以外の再生等欠損金額等及び解散の場合の欠損金額等の控除明細書
(第6号様式別表11) 記載の手引

(令和6年改正)

1 この明細書の用途等

(1) この明細書は、欠損金額又は個別欠損金額について、次に掲げる法人が記載し、(イ)に掲げる法人にあっては第6号様式、第6号様式(その2)又は第6号様式(その3)に添付し、(ロ)に掲げる法人にあっては第6号様式別表5の2に併せて提出してください。

(イ) 地方税法(以下「法」といいます。)第72条の23第1項の規定によりその例によるものとされる法人税法第59条第3項(東日本大震災の被災者等に係る国税関係法律の臨時特例に関する法律(平成23年法律第29号。以下「震災特例法」といいます。)第17条第1項の規定により読み替えて適用する場合を含みます。以下同じです。)又は第4項の規定の適用を受けようとする法人

(ロ) 法第72条の18第1項の規定によりその例によるものとされる法人税法第59条第3項(震災特例法第17条第1項の規定により読み替えて適用する場合を含みます。)又は第4項の規定の適用を受けようとする法人

(2)

「

第1号
・
法第72条の2第1項 第3号 に掲げる事業
・
第4号

」
となつている箇所については、事業の区分に応じ、「第1号」、「第3号」又は「第4号」のいずれかを○印で囲んで表示してください。

(3) 法第72条の2第1項第1号に掲げる事業、同項第3号に掲げる事業及び同項第4号に掲げる事業のうち2以上の事業を併せて行う法人にあっては、それぞれの事業に係る欠損金額又は個別欠損金額の計算の別を明らかにして記載し、それぞれの事業ごとに提出してください。

(4) 本都内に恒久的施設を有する外国法人については、法人税法第141条第1号イに掲げる国内源泉所得に係る所得の金額及び同号ロに掲げる国内源泉所得に係る所得の金額の計算の別を明らかにして記載してください。

2 各欄の記載のしかた

欄	記載のしかた
1 「債務の免除を受けた金額①」から「計④」までの各欄	法人税の明細書(別表7(4))の1から4までの各欄の金額を記載してください。
2 「適用年度終了の時における資本金等の額⑥」	法第72条の18第1項又は第72条の23第1項の規定によりその例によるものとされる法人税法第59条第4項の規定の適用を受ける場合に、法人税の明細書(別表7(4))の6の欄の金額を記載してください。
3 「当期控除を受ける欠損金額等又は災害損失欠損金額⑦」	第6号様式別表9の④の「計」の欄の金額を記載してください。
4 「⑦の金額を控除した後の所得⑨」	「1 この明細書の用途等」(1)(イ)に掲げる法人が、第6号様式の⑥の欄の金額又は第6号様式別表5の③の欄の金額から⑦の欄の金額を控除した金額を記載してください。
5 「⑦の金額を控除する前の所得⑩」	「1 この明細書の用途等」(1)(ロ)に掲げる法人が、第6号様式の⑥の欄の金額又は第6号様式別表5の③の欄の金額を記載してください。
6 「④、⑧又は⑨のうち最も少ない金額⑪」	「1 この明細書の用途等」(1)(イ)に掲げる法人のうち、法第72条の23第1項の規定によりその例によるものとされる法人税法第59条第3項の規定の適用を受ける法人にあっては④の欄の金額、⑧の欄の金額又は⑨の欄の金額のうち最も少ない金額を、同条第4項の規定の適用を受ける法人にあっては⑧の欄の金額又は⑨の欄の金額のうち少ない金額を記載してください。
7 「④、⑤-⑥又は⑩のうち最も少ない金額⑫」	「1 この明細書の用途等」(1)(ロ)に掲げる法人のうち、法第72条の18第1項の規定によりその例によるものとされる法人税法第59条第3項の規定の適用を受ける法人にあっては④の欄の金額、⑤の欄の金額から⑥の欄の金額を控除した金額又は⑩の欄の金額のうち最も少ない金額を、同条第4項の規定の適用を受ける法人にあっては⑤の欄の金額から⑥の欄の金額を控除した金額又は⑩の欄の金額のうち少ない金額を記載してください。
8 ⑬から⑰までの各欄	法第72条の18第1項若しくは第72条の23第1項の規定によりその例によるものとされる法人税法第59条第3項の規定の適用を受ける場合には、記載する必要はありません。

3 添付書類

法人税の確定申告の際に税務署に提出した別表等のうち、次のものの写しを添付してください。

- (1) 「1 この明細書の用途等」(1)(イ)に掲げる法人
・・・別表7(4)
- (2) 法人税法施行規則第26条の6に規定する書類(会社更生等により債務の免除を受けた金額等の明細等に関する書類)
(地方税法の施行に関する取扱いについて(道府県税関係)第3章第2節4の5の3(3))